第１回　能美市立地適正化計画策定委員会　議事録

日　時：令和８年７月 23 日（木）　10：00～12：00
場　所：寺井地区公民館　３０１会議室

－次　第－

１．開会
２．挨拶
３．委員紹介
４．議題
　能美市立地適正化計画について
　・立地適正化計画の必要性と概要
　・能美市の現況と課題の方向性
　・意見交換
５．その他
６．閉会

【議事録】

部長挨拶

本日もお忙しい中ご出席をいただき感謝するとともに、日頃からの都市計画行政へのご理解、ご協力に感謝申し上げる。

本日の議題は、立地適正化計画の必要性と概要についてご理解を深めていただき、その上で能美市の現況と課題の方向性について議論していただく。

この委員会は、立地適正化計画が能美市にとってどのような重要性を持つか検討していくことになる。本策定委員会は約２年間にわたり議論していただくことになるが、この期間は能美市の未来をともに作り上げていく貴重な時間である。

委員各位におかれては、それぞれの知見や経験に基づいた忌憚のない意見をいただきたい。本日はよろしくお願い申し上げる。

議題：能美市立地適正化計画について

①立地適正化計画の必要性と概要

※事務局より説明

・委員長　：ただ今の説明について質問や意見はあるか。

・委員　：誘導施設の配置について、コンパクトシティの概念と居住の自由度の関係性に懸念。長期的な集約のイメージは理解するが、具体的な整理方法が不明瞭。

・事務局　：福祉施設や病院などの既存施設との整合性を図りながら都市機能誘導区域を設定する計画。全ての施設を集約する必要はなく、長期的な誘導計画を進める。

・委員長　：防災などは全体的な施策として進めた方が安全性も高まるため、慎重に進めたい。

・委員　：誘導区域について、現状で居住している区域を育てるのか、新たに構築するのか。

・事務局　：人口減少を踏まえ、現在の区域を維持しながら設定していく方針。

・委員　：今ある区域を明確化して発達させていくイメージと理解した。

・委員長　：周辺市町や県との関係性はどうか。

・事務局　：近隣の小松市や白山市などは既に策定しており、能美市が最後。

・委員　：能美市は農業振興地域と用途地域の区分が明確で、既にある程度コンパクトシティに近い形で形成されている。他市町の状況を見ながらこの段階に入った。

・委員長　：地域特性があり、能美市は今が良いタイミングと理解した。

・委員　：能美市は多極型であり、一極集中ではなく多極連携が重要。一方で、防災センターのように大型化が必要なものは一極集中も必要であり、使い分けが重要。ネットワークの考え方が今後さらに重要。

②能美市の現況と課題の方向性

※事務局より説明

・委員長　：ただ今の説明について質問や意見はあるか。
・委員　：公衆衛生の立場から、上下水道の老朽化や広域化によるメンテナンスの課題について、今後データ等の提示を要望。
・事務局　：水道は大きな問題はなく、下水道のカバー率は9割を超えている。図面提供の可否を確認する。
・委員　：広域化に伴う維持管理の困難さについて、公衆衛生の視点も加味すべき。
・事務局　：維持管理面も分かる資料を確認したい。
・委員　：人口減少の中でも、空き家・空き店舗の活用による人口社会増につなげてもらいたい。住まいだけでなく店舗利用も重要でないか。
・事務局　：誘導施策を検討する中で、空き家対策も示したい。

・委員　：高齢化率の高い集落における災害時の避難、公共交通、ライドシェアの実効性に懸念。小さな集落の声が反映されず、サービスが低下しないか。
・事務局　：中山間地域の維持は必要であり、公共交通施策との整合を図りながら、立地適正化計画でもサービスを残していきたい。
・委員　：まちなかの空き地・空き家の増加、地価下落を実感。一方、町はずれでの新築が増加。公共交通の現状や課題、IR石川との接続も含めて多面的に考える必要がある。
・委員長　：現況資料について公開するのか。
・事務局　：多くは公開資料だが、一部は確認の上で公開したい。

・委員　：衛生面や公共交通については人口減少を前提に考え、土木部だけでなく健康福祉部や産業交流部など全庁的な連携が必要でないか。
・事務局　：委員会前に庁内策定委員会を開催し、各部署の意見を踏まえて本会議の議題としたい。
・委員　：全庁的に連携を取って進めてほしい。
・委員長　：委員会全体の意見として受け取ってほしい。

・委員　：1月までに誘導区域などを定めるスケジュールは厳しいのではないか。生活拠点を誘導施策としてどのように位置付けるのか。
・事務局　：極端な誘導は考えておらず、現在の用途地域の規制の中で広めに設定したい。山間部の切り捨てにならない施策も検討したい。スケジュール感については、できるだけ早く意見をいただき間に合わせたい。
・委員　：誘導よりネットワークが最重要課題か。
・事務局　：難しい部分である。

・委員　：P5の「誘導」という言葉に違和感があり、中心拠点への誘導と生活拠点への誘導のどちらに力点を置くのか不明。
・事務局　：両方である。

・委員　　：人が集まるには魅力が必要であり、公共交通だけでなく魅力ある機能の誘導が必要。

・委員長　：予算の規模はどう想定しているか。ネットワーク化に要する予算は大きいと思う。バス運転手は市民サービスを考えて出すのか。
・事務局　：本計画では区域、施策、目標値を定めるものであり、公共交通は本計画では概念を検討するが具体的な事業や予算は別の各担当部局が担う。現時点で予算は示せない。

・委員　　：コンパクトシティという言葉は大都市圏由来であり、地方都市では使い方に注意が必要。能美市では多極型の維持が重要で、新たな拠点を無理に作る必要はない。既存コミュニティを捨てず、修復を基本とすべき。

・委員　　：「コンパクトシティ」と言わず、誤解を生まない能美市独自のネーミングを考えるべき。
・事務局　：今後の会議で提案したい。
・委員長　：「誘導」という言葉に心理的抵抗があるため、誤解されない表現の検討が必要。
・委員　　：市民向けには国の制度名をそのまま使うのではなく、能美市版の表現にした方がよい。居住誘導区域は、現状の住宅立地区域から絞って設定することになる。ただし居住誘導区域外でもライフスタイルに応じた暮らし方ができることを示すべき。

・委員　　：能美市に住んでいてもコンパクトシティとの実感は乏しい。辰口地区は根上・寺井に比べ鉄道や主要バスがなく、市外とのつながりで生活している。また、まちなか、里山など各スタイルに応じた暮らしができることをアピールすべき。

・委員　　：高齢者や免許返納者の増加の中で、思うような公共交通になっておらず、民間の力を導入・活用する工夫が必要。また、本計画にあたり土地利用条例による規制を緩めるのか。
・事務局　：基本的な規制は維持し、建てられるエリアの中でどう誘導するかを考えるものであり、規制緩和は本計画では扱わない。
・委員　　：コンパクトシティの考え方と規制緩和は逆行する面があり、慎重に考える必要がある。
・委員　　：交通手段は重要であり、全国的に課題が多いが、能美市独自の交通システムを構築することで、車を持たずに移動できる時代を目指せる可能性がある。

・委員長　：辰口地区では市内より他市町への流れもあり、市内移動を優先するのか、利

便性の高いエリアへの移動を優先するのか、県としてどう考えているのか。

・事務局　：小松市や白山市といった広域の立地適正化計画がベストかもしれない。

・委員長　：本計画ではどういうコンセプトで周辺とどう調整するのか、それとも市内完結で考えるのか。居住誘導地域への居住継続は各家庭の判断によるため、現在のニーズに応えることが重要か議論する必要がある。

・委員　：現在の行動を変えてまで居住場所を移すところまでは想定しておらず、誘導区域の魅力を示せる施策を検討していくことになる。移動の確認は人流データの分析で可能。

・委員長　：能美市を選んでもらう対象は市外居住者なのか、現住民の定着なのか。

・委員　：都市間競争の観点はあるが、その役割は総合計画や都市マスタープランで扱う内容と思う。

・委員　：能美市は南北のつながりだけでなく、東西をつなぐ仕組みづくりに努力し、地域のアイデンティティを重視すべきである。

・委員　：連携バスや路線バスは通勤・通学に重要な役割を果たしており、この計画と合わせてさらなる改善につながると思う。

・委員　：交通は使う側の努力も必要。

・委員　：人の流れは広域化して、能美市だけでは完結しない。インフラや公園など快適な居住環境の向上を重視すべきでないか。医療は再編が進んでおり、誘導施設としての設定が難しいと感じる。

閉会

以上